

災害アーカイブズとしての山口弥一郎旧蔵資料の特徴と意義

辻本侑生*(浜銀総合研究所)・岡村健太郎(東京大学生産技術研究所)・青井哲人(明治大学理工学部)・石樽督和(東京理科大学工学部)

§1. はじめに

東日本大震災以降の災害史研究において、人文地理学者・民俗学者、山口弥一郎(1902~2000)の研究業績に注目が集まっている。報告者らは山口の先駆的な業績を、三陸地方において歴史的に繰り返されてきた津波と復興のプロセスを記録したアーカイブズと位置づけ、再検討してきた(青井, 2011)。そして報告者らは、著書や論文として公表された業績のほかに、山口の生涯にわたる調査研究の過程で収集・蓄積された資料(以下「山口弥一郎旧蔵資料」)が残されていることに着目し、資料調査を実施した。

山口弥一郎旧蔵資料は山口の没後、福島県磐梯町に寄贈された。そのうち、蔵書以外の資料について、平成 29(2017)年 9 月現在、福島県立博物館民俗分野において整理作業が進められている。山口の研究業績は炭鉱集落や地方都市の立地論、東北地方の農山村の暮らしや食生活(焼畑や雑穀作)、福島県を中心とした東北地方の民俗芸能や祭礼、シルクロード文化論など非常に幅広く、災害関係についても東日本大震災被災地域に関するものに限らず、福島県内の河川災害に関してなど多岐にわたる。

このように、山口弥一郎旧蔵資料において災害関係資料はごく一部を占めるものであり、本報告は山口弥一郎旧蔵資料全体を「災害アーカイブズ」として位置づけることを意図していない。本報告は、山口弥一郎旧蔵資料に含まれる東日本大震災被災地域関係の資料について概要を紹介し、それらの特徴と意義について若干の検討を行うことを目的とする。

§2. 東日本大震災被災地域の災害史に関する資料

山口弥一郎旧蔵資料の中には、山口がフィールドワークの過程で入手した一次資料の原本が見いだされる。昭和三陸津波についてみると、被害状況を示す資料として、例えば「岩手県気仙郡唐丹村大震災被害調査表」のような資料がみられる。また、復興計画などに関する資料として、「綾里村災害復興協会昭和八年四月十日 事務経過報告書」のような資料がみられる。こうした一次資料は、過去の津波や東日本大震災での被災によって現地には残されていない可能性も高く、災害史研究において重要な資料であると考えられる。

§3. 災害に関するフィールドワークからアウトプットまでのプロセスを示す資料

山口弥一郎旧蔵資料には、山口が調査研究において用いた調査票、フィールドノート、データ整理用のカード、学会報告用のポスター、論文・著作の構想メモ、原稿などが含まれている。これら

は、山口が災害に関するフィールドデータをどのように入手し、どのようにコーディング・図表化し、最終的なアウトプットを取りまとめたのか追跡し得る資料である。

データの入手から加工の過程に沿って資料をみていくと、三陸地方の津波に関する山口の主著『津浪と村』(1943)が、あらかじめ計画された統一的なアプローチに基づくものではなく、自然地理学・人文地理学・民俗学など複数の学問における方法論を試行錯誤しつつ併用した結果、産み出された業績であることが示唆される。こうしたアウトプットの「作られ方」の検討は、災害史研究の方法論を検討する上で、有用であると考えられる。

§4. 研究者としての災害への向き合い方に関する資料

山口は、柳田國男に「一人の尊い命でも救助を願うのなら、漁村の人々にも、親しく読めるものを書いてみてはどうか」と問いかけられ、学術論文ではない読み物として『津浪と村』を著したと記しているが[山口(1992)], 実際に『津浪と村』が三陸の人びとにどのように受け止められたのかについては、これまでに明らかになっていなかった。山口弥一郎旧蔵資料には、昭和中期からの平成初期に至るまでの、三陸各地からの問い合わせや感謝の手紙が残されている。また、山口も、晩年まで断続的に三陸を再訪して調査や講演を行い、災害に関する新聞記事があれば切り取ってスクラップ帳に貼り付けていたことが資料から窺える。

災害研究に関わる研究者の姿勢が問われる中、生涯にわたって災害を「わが事」としてとらえ続けた山口の姿勢から、学ぶべきことは多いように思われる。

§5. おわりに

山口弥一郎旧蔵資料に含まれる災害関係資料には、災害史そのものを明らかにし得る資料に加えて、研究者のフィールドワークからアウトプットまでのプロセスを示す資料や、研究者としての災害への向き合い方を示す資料がみられ、性格の異なる資料が混在している点に特徴がある。こうした特徴をもつ山口弥一郎旧蔵資料の災害関係資料は、災害史のアーカイブズとしての意義に加え、災害に向き合った一人の研究者の試行錯誤や姿勢をも示す、重層的な災害アーカイブズとしての意義を有すると考えられる。

参考文献

青井哲人, 2011, 事後のアーカイビング: 山口弥一郎に学ぶ, 建築雑誌, 1624, 32-33p.
山口弥一郎, 1992, 東北地方研究の再検討 人の巻, 文化書房博文社, 174-175p.